

特別企画：四国地区 スーパーマーケット主要 20 社 業績動向調査（2020 年度）

2020 年度の売上高、4 年ぶりに増加

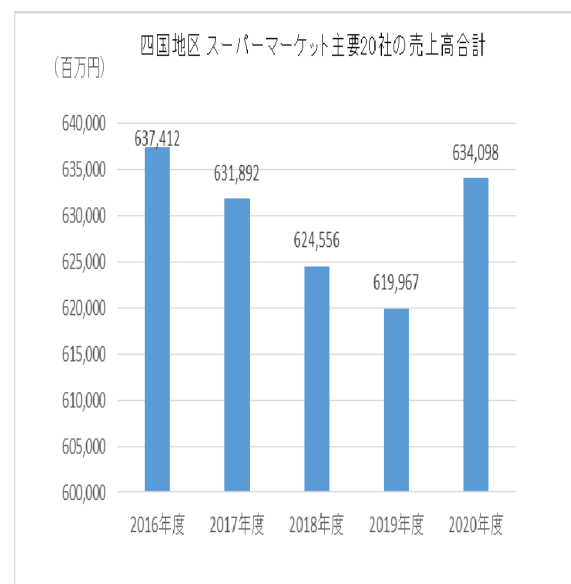
はじめに

2018 年にイオン（株）（東証 1 部上場）と業務提携していた（株）フジ（愛媛県）が、2021 年 9 月にイオン（株）傘下のマックスバリュ西日本（株）（東証 2 部上場）との経営統合を発表した。また、2010 年にイオン（株）と業務提携していた（株）マルナカ（香川県）が、2021 年 3 月にマックスバリュ西日本（株）に吸収合併されたほか、2019 年には（株）マルヨシセンター（東証 2 部上場）が「ゆめタウン」などを展開する（株）イズミ（東証 1 部上場）と資本業務提携をするなど、大手を中心に地方におけるスーパーマーケットの再編が進んでいる。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大で、「巣ごもり消費」の定着による飲食料品の販売額が増加する一方、テレワークの進展や外出自粛、風や長雨など天候不順による衣料品の販売不振がみられるなど、取り巻く経営環境が変化するなか、四国地区の地場スーパーマーケットの業績はどのように推移しているのだろうか。

帝国データバンク高松支店は、2021 年 8 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、2016 年度（2016 年 4 月期～2017 年 3 月期）から 2020 年度（2020 年 4 月期～2021 年 3 月期）までの決算の年売上高と利益額が比較可能な、四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社を抽出し、年売上高別、利益額（当期純利益）別、売上高ランキングについて分析した。

調査結果（要旨）

1. 2020 年度の年売上高合計は 6,340 億 9,800 万円
前年度と比べて 141 億 3,100 万円（2.3%）多く、4 年ぶりに増加
2. 2020 年度の利益額合計は 83 億 5,493 万円
前年度と比べて 30 億 2,852 万円（56.9%）多く、2 年連続の増加



1. 年売上高推移、4 年ぶりに前年度を上回る

四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社について、2016 年度～2020 年度決算の年売上高合計をみると、2020 年度は 6,340 億 9,800 万円となり、前年度と比べて 141 億 3,100 万円 (2.3%) 多く、4 年ぶりに増加した。増減収の社数別内訳は、増収が 14 社に対して減収は 5 社、1 社が横ばいであった。新型コロナウイルスの感染拡大で、「巣ごもり消費」の定着による飲食物品の販売増が寄与して増収となった企業が多かった。

年商規模別にみると、「500 億円以上」(前年度比 1.0%減)のみ前年度を下回ったが、「100 億円未満」(同 4.1%増)、「100 億～500 億円未満」(同 5.7%増)はいずれも前年度を上回った。

(単位: 百万円)

年度	売上高合計	前年度比 (%)	売上高合計(年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2016年度	637,412	0.3	43,912	285,209	308,291
2017年度	631,892	▲ 0.9	43,417	281,468	307,007
2018年度	624,556	▲ 1.2	43,316	278,141	303,099
2019年度	619,967	▲ 0.7	44,489	272,107	303,371
2020年度	634,098	2.3	46,306	287,502	300,290

2. 利益額推移、2 年連続で前年度を上回る

2016 年度～2020 年度決算の利益額合計(当期純利益)をみると、2020 年度は 83 億 5,493 万円となり、前年度と比べて 30 億 2,852 万円 (56.9%) 多く、2 年連続で増加した。比較的利益率の良い生鮮品の売上増に加え、食品ロスの削減、セルフレジの導入などによる効率化が寄与し、利益額合計は大幅に増加した。

年商規模別にみると、「500 億円以上」(前年度比 14.4%減)のみ前年度を下回ったが、「100 億円未満」(同 0.3%増)、「100 億～500 億円未満」(同 457.0%増)はいずれも前年度を上回った。

(単位: 千円)

年度	利益額合計	前年度比 (%)	利益額合計(年商規模別)		
			100億円未満	100億～500億円未満	500億円以上
2016年度	5,819,950	23.6	181,564	2,459,386	3,179,000
2017年度	5,675,656	▲ 2.5	435,125	1,504,531	3,736,000
2018年度	5,176,009	▲ 8.8	▲ 564,808	173,817	5,567,000
2019年度	5,326,409	2.9	709,015	783,394	3,834,000
2020年度	8,354,934	56.9	711,400	4,363,534	3,280,000

※2018 年度における「100 億円未満」のマイナスは、多額の固定資産売却・除却損や減損損失を特別損失として計上した企業が全体を押し下げたことが主な要因

3.まとめ

今回の調査で、四国地区に本社が所在するスーパーマーケット主要 20 社の 2020 年度の売上高合計は、4 年ぶりに増加したことがわかった。新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり消費の定着で、家庭内における飲食機会の増加が背景にあるとみられる。

こうしたなか、2021 年度に入っては、新型コロナウイルス感染拡大の収束がみられず、引き続き巣ごもり消費による飲食料品の需要は堅調ながら、今後はワクチン接種の進展による外出機会の増加や外出消費の回復などで減少が予想される。加えて、消費者による EC・宅配利用の拡大や、外食企業によるデリバリー・テイクアウトなど内食への参入で、異業種間競争がさらに激化することも予想される。また、天候不順による葉物野菜の不作から価格が高騰しており、この状況が長期化することでの買い控えや、販売価格への転嫁が十分でないことでの収益面への圧迫も懸念される。

スーパーマーケット業界は、同業他社との競合に加えて、新型コロナウイルス感染拡大により消費者の購買行動が変化しており、経営環境の厳しさは続いている。新しい生活様式に合わせたサービスの拡充など、生き残りをかけた様々な取り組みも予想されることから、引き続き幅広い観点から動向をみていく必要がある。

<参考>

四国地区 スーパーマーケット主要20社 2020年度売上高ランキング

(単位:百万円)

順位	商号	本社所在地	売上高 (2019年 度)	売上高 (2020年度)	前年度比 増減	前年度比 増減率(%)
1	株式会社 フジ	愛媛県松山市	303,371	300,290	↓	▲ 1.0
2	株式会社 サニーマート	高知県高知市	42,267	42,835	↑	1.3
3	株式会社 マルヨシセンター	香川県高松市	38,477	40,263	↑	4.6
4	生活 協同組合 コープえひめ	愛媛県松山市	34,304	38,101	↑	11.1
5	株式会社 キョーエイ	徳島県徳島市	33,460	34,760	↑	3.9
6	株式会社 エースワン	高知県高知市	21,440	23,957	↑	11.7
7	生活 協同組合 コープかがわ	香川県高松市	18,315	20,569	↑	12.3
8	株式会社 サンシャインチェーン本部	高知県高知市	20,619	20,426	↓	▲ 0.9
9	株式会社 きむら	香川県高松市	17,000	16,952	↓	▲ 0.3
10	こうち生活 協同組合	高知県高知市	11,445	12,775	↑	11.6
11	株式会社 サンプラザ	高知県土佐市	11,959	12,469	↑	4.3
12	生活 協同組合 とくしま生協	徳島県板野郡	10,821	12,395	↑	14.5
13	株式会社 ママイ	愛媛県新居浜市	12,000	12,000	→	0.0
14	株式会社 日東物産	愛媛県松山市	8,078	8,691	↑	7.6
15	株式会社 松山生協	愛媛県松山市	7,994	7,780	↓	▲ 2.7
16	株式会社 木村チェーン	愛媛県新居浜市	6,194	6,820	↑	10.1
17	株式会社 ムーミー	香川県高松市	6,302	6,490	↑	3.0
18	株式会社 そごうマート	愛媛県西条市	5,754	5,951	↑	3.4
19	フードブレイン 株式会社	愛媛県四国中央市	4,710	5,386	↑	14.4
20	株式会社 今治デパート	愛媛県今治市	5,457	5,188	↓	▲ 4.9

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、道田 祐一

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。